

会 議 録

会 議 の 名 称	平成31年第1回弘前市立病院運営審議会
開 催 年 月 日	平成31年2月21日 (木)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後4時 から 午後4時50分まで
開 催 場 所	市立病院別館2階 指導室1・2
議 長 等 の 氏 名	(議長) 弘前市立病院運営審議会 会長 今村 憲市
出 席 者	弘前市立病院運営審議会 (委員総数7人、出席6人) 会長 今村 憲市 委員 竹澤 俊之 小山 三千雄 櫻庭 利光 前田 淳彦 柳田 光祥
欠 席 者	小山内 康晴
市立病院職員の名	院長 東野 博 事務局長 澤田 哲也 副院長 中畑 久 副院長 田中 正則 副院長 坂本 十一 副院長 長谷川 善枝 副院長 中村 吉秀 医療局長兼外科科長兼手術・中央材料科科長 成田 淳一 総看護師長 立園 裕子 副総看護師長 工藤 真紀子 副総看護師長 成田 直子 副総看護師長兼看護師長 田中 貴子 薬剤長 田中 南美英 総務課長 堀子 義人 総務課総括主幹 佐伯 尚幸 医事課長 尾坂 毅 医事課長補佐 山上 哲司 医事課主幹 石岡 博之 総務課主幹 種市 穂 総務課総務係長 齋藤 貴志 総務課管財係長 小山内 哲 総務課主査 永田 裕城
会 議 の 議 題	(諮問事項1件、報告事項1件) 諮問第1号 平成31年度弘前市立病院運営方針について 報告第1号 平成31年度弘前市病院事業会計実施計画について
会 議 結 果	・諮問第1号は、質疑応答を経て、異議なく了承された。 ・報告第1号は、質疑応答により理解を得た。
会 議 資 料 の 名 称	・諮問第1号 平成31年度弘前市立病院運営方針 (案)、平成30年度運営方針との比較資料 ・報告第1号 平成31年度弘前市病院事業会計実施計画、平成30年度12月末現在計理状況 ・その他 新中核病院整備の進捗状況について 新公立改革プランの概要

<p>会議内容</p> <p>( 発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等 )</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 委嘱状交付 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市長から櫻庭委員へ委嘱状を交付</li> </ul> </li> <li>2 開会</li> <li>3 市長挨拶</li> <li>4 諮問書交付 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市長から今村会長へ、今回の諮問事項に係る諮問書交付</li> </ul> </li> <li>5 議席の指定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今村会長が櫻庭委員の議席を4番に指定</li> </ul> </li> <li>6 案件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今村会長が議長となり、会議を進行</li> </ul> </li> </ol> <p>①諮問第1号 平成31年度弘前市立病院運営方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局長から、運営方針の内容、平成30年度からの変更点等、諮問事項の内容説明</li> </ul> <p>(意見) 小山委員：昨年は、基本理念の5は健全化ということだったが、今度は効率化ということで、もちろん健全化はなかなかできないかもしれないが、効率よく、市民に提供できるようにお願いしたい。</p> <p>②報告第1号 平成31年度弘前市病院事業会計実施計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総務課長から、平成31年度弘前市病院事業会計予算案に基づく、実施計画について内容説明</li> </ul> <p>(質問) 竹澤委員：2点教えていただきたい。</p> <p>1点目は、負担金・交付金で、30年度は、5億円追加ということだが、今年30年度の補正で、5億円繰り入れしてもらえるのか。</p> <p>もう1点は、31年度の予算を見ると、30年の3月の補正とほぼ変わり無ない、同等の体制でいけるだろうという予算に見えるが、実際のところドクターなどが、退職で人数減になるという予定はないのか。</p> <p>(回答) 1点目の負担金5億の増についてだが、ここ数年、当院の経営はかなり悪化しており、今年度もまた大きな純損失が発生する見込みである。</p>
---	--

病院統合に向け、閉院時に、大きな損失を残さないために、毎年度少しずつ繰入金を増額していただくということで、一般会計のほうと話をし、30年度は、5億円を増額してもらうことを了解してもらったものである。

31年度の予算収支等についてだが、基本的に30年の3月補正で、ある程度、実績に見合った収支に、予算を修正しており、これらを基に31年度予算を算定した。

新年度の職員体制等だが、現時点では、来年度の医師の増減は、まだ正式に決定していないため、30年度と同様の体制ということで予算を編成している。

### ③その他（新中核病院整備の進捗状況について）

・事務局長から、新中核病院整備の進捗状況について報告  
(意見) 小山委員：新中核病院が整備されるまで、市立病院をしっかりと運営し、将来、市民に、良いサービスをしていただきたい。

(意見) 今村会長：病院機能で、「地域医療支援病院」とあり、診療所の先生方を相手にした事業になると思うが、この地区では、「在宅療養後方支援病院」が必要なのではないか。

2025年に、団塊の世代が70以上になった時に、在宅医療のニーズが更に高まると思う。

人口20万人程度のまちであれば、例えば盛岡市では、在宅療養後方支援病院は、2～3か所あるが、この地区には、どこにもない。

行政からも在宅医療を進めて欲しいとされており、二次救急が、後方に高度救命センターがあるから安心して医療を行えるのと同様に、在宅医療を行っている医師にとっては、地区内に在宅療養後方支援病院があることによって、安心して行うことができる。

(回答) 在宅医療など救急以外の患者を診る病院が、弘前市内は少ないと感じている。

中核病院が整備されたからよいということではなく、ハードルは高いかもしれないが、後方支援病院のような病院は必要だと思う。現在、在宅療養支援病院はあるが、将来的にはこれも不足するのではないかと思う。

これから、中核病院建設までに、きちんと話をしていきたい。

(意見) 今村会長：在宅療養支援病院は、今でも弘前にたくさんあるが、在宅医療を安心して行うためには、在宅療養後

	<p>方支援病院が必要である。</p> <p>国立病院機構でも、何か所の病院では、後方支援病院の施設基準をとって運営しているところもある。津軽地域の人口が30万人くらいとして、そういう病院が1か所もないというのは、困ることである。</p> <p>(意見) 柳田委員：病院というところは、体調が悪くて来るところであり、「悲しみの場」だと思っていた。しかし、病気が治ったり、体調がよくなる場所であり、「喜びの場」だと思えるようになった。今後、大きな病院になっても、今の中身は失わずに、よい病院を作りたい。</p> <p>④その他（新公立病院改革プランの改訂について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総務課長から、新公立病院改革プランの改訂について報告</li> </ul> <p>7 院長挨拶・閉会</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議は、報道機関に公開。当日取材は2社（東奥日報、陸奥新報）</li> </ul>